

# 龍澤僧堂

所 在 静岡県三島市沢地三二六

圓通山龍澤寺、妙心寺派の専門道場。宝暦十年（一七六〇）二月、臨済宗中興の祖と称せられる白隱禪師の高弟東嶺円慈禪師によつて創建された。このとき東嶺は師白隱を開山に請じてゐる。同年四月、多くの雲衲が參集して最初の結制が行なわれたが、ただし、この地は現在地とは別である。

翌年九月、現在の沢地の方丈、庫裏が完成、重ねて白隱を迎えて開山入寺の上堂が行われた。現在白隱を龍澤開山、東嶺を龍澤創建として開山堂に祀つてゐる。

「白隱の古道場」として多くの名僧が住持し、また僧俗問わず修行者が參集したが、この中には、明治の初め、星定元志せいじょうげんし禪師に参じた山岡鉄舟居士がいる。

しかし廃仏毀釈等により次第に衰退、大正四年（一九一五）山本玄峰老師が入寺したころは、「上漏下湿」、雨は漏り、床は腐るという状態であつたが、やがて玄峰老師を慕う多くの修行者が參集、また代々の老師方の努力により、「白隱の古道場」の面目を保つて現在に至つてゐる。

やまもとげんぱう 山本玄峰 慶應二年（昭和三十六年）一八六六年（一九六一）



道号は玄峰、法諱は宜詮、宜雄。室号般若窟。俗姓山本。和歌山県東牟呂郡本宮町湯の峰の出身。同二十三年（一八九〇）二十五歳のとき、高知市雪蹊寺太玄和尚のもとで得度、玄峰の号を受ける。翌年、滋賀の永源僧堂に初掛搭し、澤村臨應老師に参禅。その後、神戸祥福僧堂の毛利喚應、井山宝福僧堂の別所九峰、虎溪山僧堂の豊田毒湛、華山海晏の諸老師を歴参。同三十六年、太玄和尚の命により雪蹊寺の住職に就任するが、同四十一、京都八幡圓福僧堂に再行脚、見性宗般老師の鉗鎌を受け、七年後に嗣法する。大正四年（一九一五）、三島龍澤寺に入る、翌年、沼津松蔭寺住職を兼務、白隱の古道場の復興に専念する。昭和三年（一九二八）、本山の命により犬山瑞泉寺に入寺、僧堂を開創する。同八年、名古屋の覚王山日泰寺住職。翌年、正受老人所縁の飯山の正受庵を復興。同十一年、本山より派遣され、中国の新京（現・長春）に妙心寺別院を開創、禪堂を開創する。同十五年、新京妙心寺を退隠。同十六年、龍澤寺



に僧堂を開創する。同二十二年、妙心寺管長に就任。同二十四年六月、退任。同二十六年、師家を法嗣中川宋淵老師に譲り閑栖。同二十九年五月より翌年二月まで八幡圓福僧堂師家を務める。昭和三十六年六月三日、遷化。布教活動は国内のみに留まらず、海外にも及び、広くその名を知られている。提唱録に『無門関提唱』、追悼集に『玄峰老師』、『回想の山本玄峰』がある。世寿九十六。

(表10)

なかがわそうえん 中川宋淵 明治四十年～昭和五十九年（一九〇七年～一九八四）

道号は玄珠、法諱は宋淵。室号は蜜多窟。俗姓中川。山口県岩国市の出身。大学在学中の昭和六年（一九三一）、塩山向嶽寺勝部敬学老師につき得度。向嶽寺ならびに大菩薩山中にて修行。東京白山道場の正修会で山本玄峰老師と法縁を結び、同十年、龍澤寺に転錫。同十二年、玄峰老師の新京妙心寺別院への赴任に随侍して中国に渡る。同十六年十月、龍澤寺に帰錫し、僧堂開創を助力。のち、玄峰老師の法を嗣ぐ。同二十六年四月、龍



澤僧堂師家に就任、同四十八年五月、退隱。昭和五十九年三月十一日、遷化。生涯を通じて海外、とくに米国布教に努め、ニユーヨーク禪堂正法寺、大菩薩禪堂金剛寺の開創に尽力した。著書に『死龕』『命篇』『遍界錄・古雲抄』、法話集に『法光寿』『空華』があり、追悼集に『蜜多余香』『蜜多海月情』『明暗雙々』がある。世寿七十八。

(表10)

すずきそうちゅう 鈴木宗忠 大正十年～平成二年（一九二一

～一九九〇）

道号は玄淵、法諱は宗忠。室号心鏡室。俗姓鈴木。栃木県上都賀郡足尾町出身。十歳のとき、岐阜県美濃の清泰寺高林玄寶和尚について得度。昭和七年（一九三二）、台湾布教師に任命された師玄寶に随行、同十四年三月、帰國。同二十九年、龍澤僧堂に掛搭。中川宋淵老師に参する一方、閑栖山本玄峰老師に随侍する。宋淵老師に嗣法、同四十八年、師家に就任。雲衲接化の一方、請によりイギリス、イタリア、ドイツを巡錫、ロンドン禪堂（金剛山般若寺）建立など海外とくにヨーロッパ布教に尽

力した。平成二年（一九九〇）一月二十五日、遷化。世寿七十。

（表10）

なかがわきゅうどう 中川球童 昭和一年（一九二七）

道号は玄華、法諱は球童。室号死活庵。俗姓中川。兵庫県氷上  
郡市島町出身。二十九歳の時、岐阜県御嵩愚溪寺の星野太源老  
師について得度。昭和三十一年（一九五六）龍澤僧堂に掛搭。  
同四十三年、中川宋淵老師の命によりイスラエル飛錫。十三年  
間滞在の後、ニューヨークに転錫しブロードウェイにソー・ホー  
禅堂を開設。嗣法師は宋淵老師。鈴木宗忠老師の遷化により平  
成二年（一九九〇）三月、龍澤僧堂師家に就任する。（表10）



## 妙興僧堂

所 在 愛知県一宮市大和町妙興寺二、四三八

長嶋山妙興寺、妙心寺派の専門道場。開山は当地の領主中嶋氏の出身滅宗<sup>めつしゅう</sup>宗興<sup>そうこう</sup>禪師。創建は正平三年（貞和四年・一三四八）、勧請開山として大応国師を迎えていた。もともと禪師が父母への報恩のため建立したもので、当初の寺名は報恩寺と称し、のち妙興寺と改められた。

足利將軍家の祈願所として栄えたが、再三の火災と戦国時代の兵乱で一時衰退した。天正十八年（一五九〇）、妙心寺の南化玄興禪師が入寺し復興に尽力。このときから当寺は妙心寺派に属することになった。

大正二年（一九一三）、入寺した松岡寛慶老師は翌三年、少年僧教育の機関として「妙興禪林」を創設した。これはそれまでの小僧教育に中等教育を合わせ行なう機関であり、この事業は次の杉本全機老師に引き継がれたが、戦後、新教育制度が実施されるなかで、昭和二十四年（一九四九）三月をもって閉鎖された。全機老師はこれに代わるものとして僧堂開單を切望、しかし、その準備中の同年九月遷化。僧堂開單は翌年大乗寺より転住された河野宗寛老師によつて実現された。

表 一

(古月下)

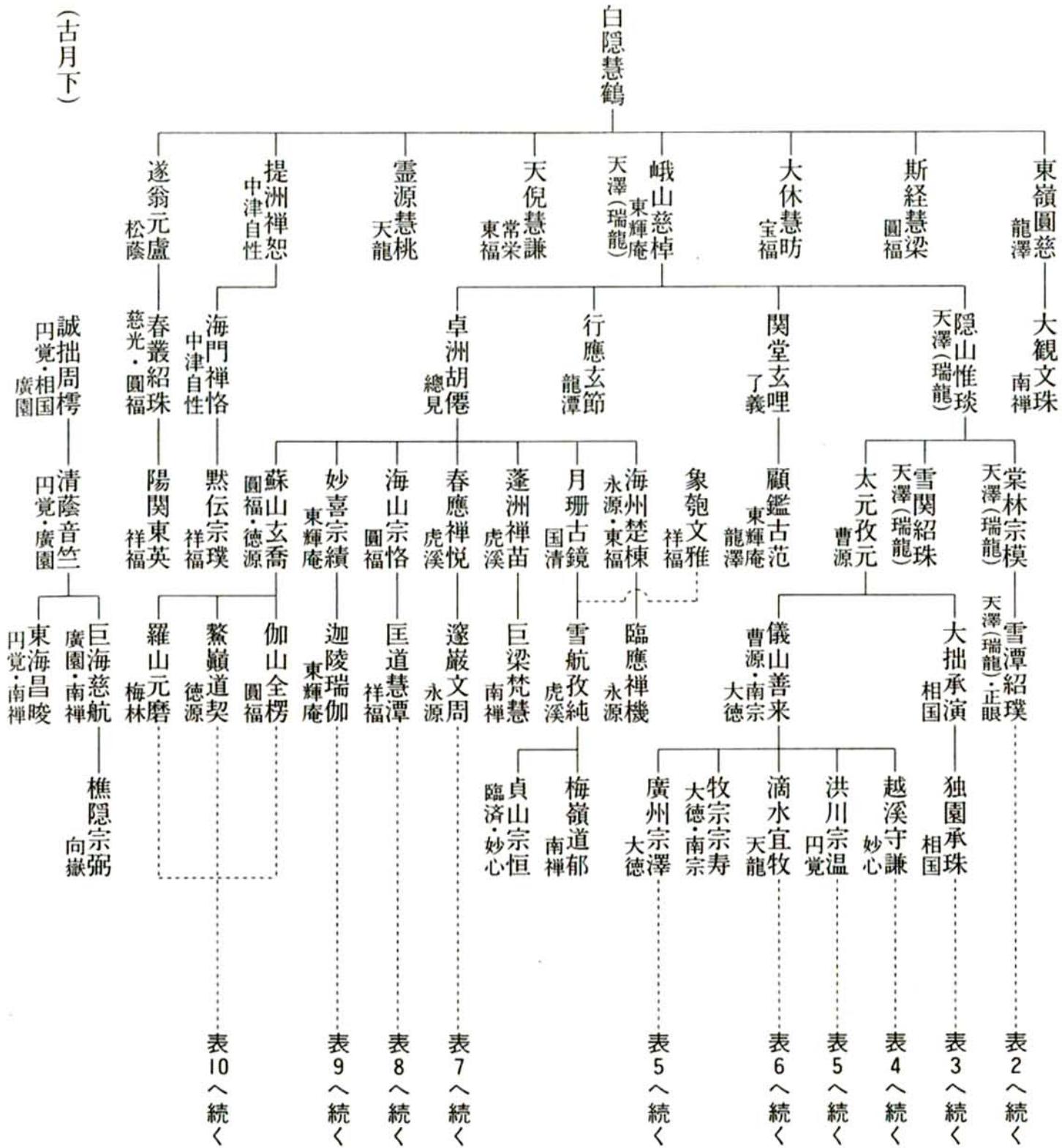


表 2

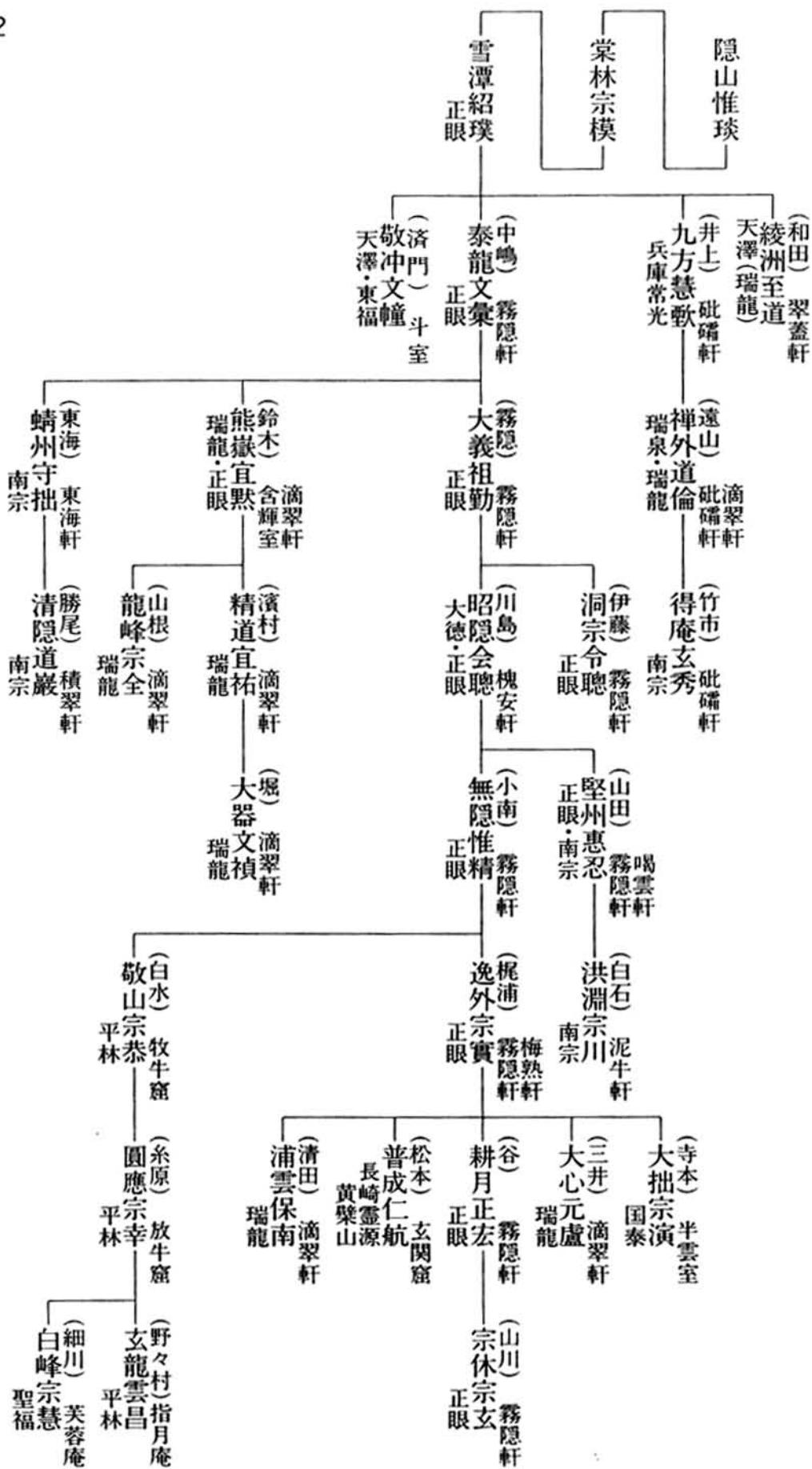


表 9

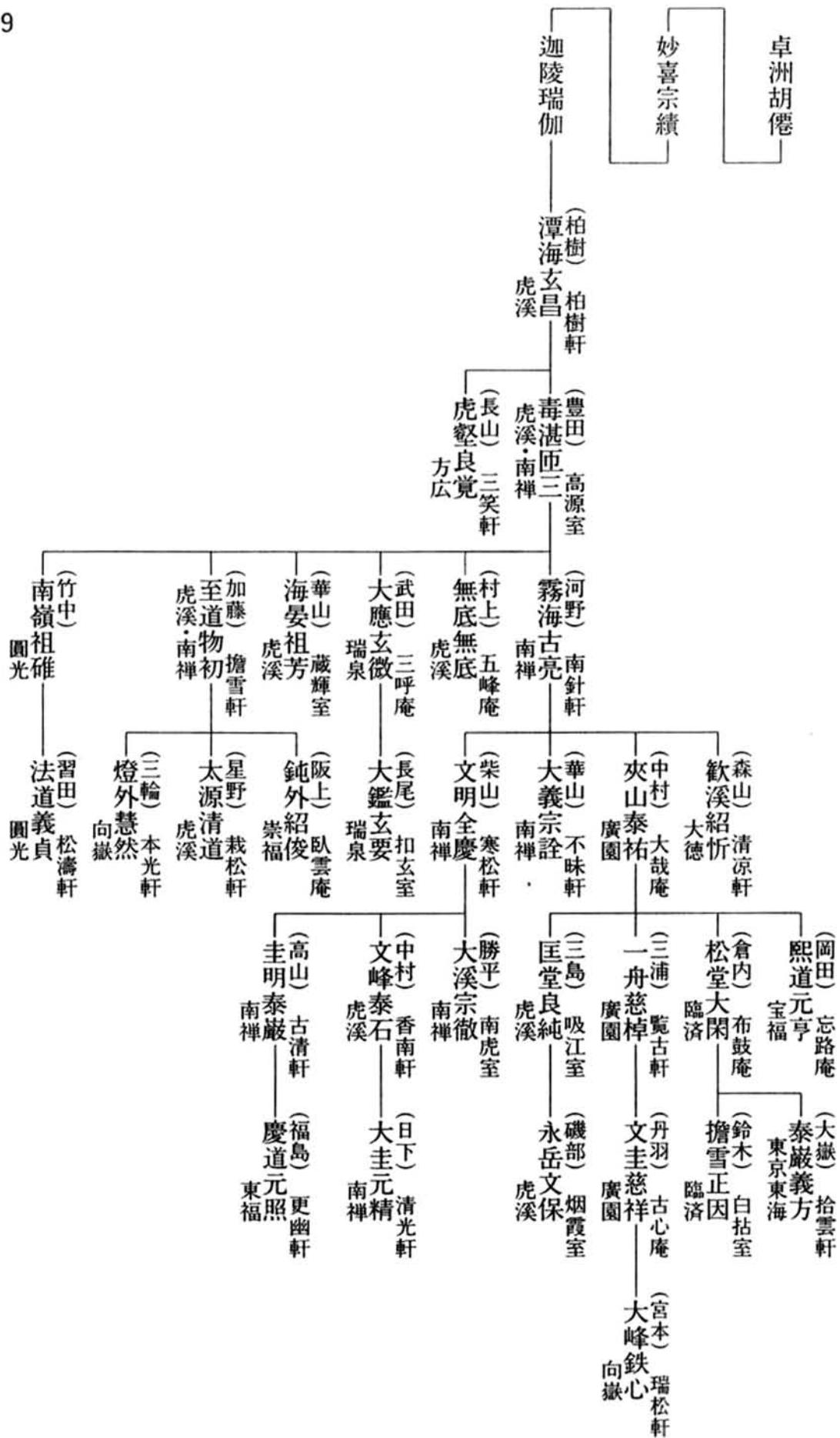


表10

